

logicool®

RALLYマイクポッド 設置ガイド



本書では、ロジクールRallyファミリー向けマイクの集音範囲を、さまざまな規模およびテーブルレイアウトの会議室で最適化する方法をご紹介します。本書には、外付けマイクの最適な配置に関する具体的なガイドが掲載されています。

目次

[各会議室に適したビデオ会議システムの選択](#)

[マイクポッドの天井への設置とテーブルへの設置](#)

[RALLY BARとRALLY BAR MINI](#)

[スピーカーモード：標準モードとスピーカー ブーストモード](#)

[標準のマイクポッド構成](#)

[スピーカー ブーストモードでのマイクポッド構成](#)

[RALLY PLUS](#)

[アクセサリ](#)



各会議室に適したビデオ会議システムの選択

会議室ごとに最も適したカメラシステムを選ぶときは、数多くの要素を検討することが大切です。カメラのズーム性能、スピーカーの出力音量、そしてマイクの集音範囲を総合的に検討することで、最適な選択が可能になります。

どのRallyデバイスをどこに設置するかを決める際に従うべき、一般的なガイドライン*を以下にご紹介します。

- **Rally Bar Mini** は、収容人数が3～12名程度、広さが5.5x6m (33m²) までの小～中会議室に最適です。
- **Rally Bar**は、収容人数が20名程度、広さが4.5x8m (36m²) までの中～大会議室に最適です。
- **Rally Plus**は、収容人数が46名程度、広さが8.5x12m (102m²) までの、上記よりさらに大きい会議室に最適です。

* 最適なパフォーマンスを実現するために、このガイドラインに従うか、あるいは個別の会議室でシステムをテストしてください。

Rallyシステムは、柔軟性が非常に高く、マイクポッドを追加することで、より広い会議室に対応することができます。Rally BarとRally Bar Miniの内蔵マイクは、ともに、最大7mまでの集音範囲に対応します。一方、U字型のテーブルや奥行きのある長テーブルなど、マイクを追加した方が良い場合もあります。その場合、Rally Barは最大で4台、Rally Bar Miniは最大で3台のRallyマイクポッドにそれぞれ対応できます*。大会議室向けのRally Plusは最大7台のRallyマイクポッドに対応します。

*外付けのマイクポッドを使用する際に推奨される製品については、後述する「[アクセサリ](#)」のセクションをご覧ください。

マイクポッドの天井への設置とテーブルへの設置

適切なRallyシステムと、マイクポッドの数を決めたら、テーブルと天井のどちらにマイクポッドを設置するかを決めます。マイクポッドの構成、設置位置、設置間隔が同じで、かつ天井の高さが3m以下であれば、テーブルと天井のどちらに設置した場合でも、パフォーマンスは同等です。天井がこれよりも高い場合は、マイクポッドの間隔を近づけます。会議室の音響の環境はさまざまに異なるため、構成をテストしてみることをお勧めします。

ほとんどの会議室では、天井に設置した方が満足のゆくパフォーマンスを得られます。ただし、特殊な空調システムが設置されていたり天井が著しく高かったりする場合のために、[ロジクールコラボレーションパートナー](#)では、音響的に厳しい環境向けの天井マイクをご用意しています。

RALLY BARとRALLY BAR MINI

[Rally Bar](#)と[Rally Bar Mini](#)は、ロジクール最新のビデオ会議室ソリューションです。これら2つのビデオバーは、単体のアプライアンスとして、あるいは、ほぼすべてのPCまたはMacに接続できるUSBビデオバーとして機能します。詳細については、www.logicool.co.jp/vcをご覧ください。

スピーカーモード：標準モードとスピーカーブーストモード

外付けのマイクポッドをRally BarまたはRally Bar Miniに接続すると、標準スピーカーモードか、スピーカーブーストモードのいずれかで利用できます。

- 標準モードでは、カメラの内蔵マイクと外付けのマイクポッドが自動的に連動します。
- **スピーカーブーストモード**の場合は、外付けのマイクポッドのみが機能します。カメラの内蔵マイクはオフになります。

スピーカーブーストモードは、標準モードに比べいくつかの利点があります。1つ目は、音量が大きいことです。カメラのスピーカー音量は、エコーキャンセラーに適したレベルに初期設定されています。スピーカーブーストモードでは内蔵マイクがオフになるため、エコーを発生させることなく、スピーカーの音量を3デシベル（dB）大きくすることができます。

スピーカーブーストモードの2つ目の利点は、2種類のマイク（外付けのマイクポッドとビデオバーの内蔵マイク）を使うより、1種類のマイク（外付けのマイクポッドのみ）を使った方が、ビデオ会議中の音声より安定して聞こえるようになる点です。

スピーカーブーストモードと標準モードのどちらを選ぶかは、会議室の規模や構成に応じて判断します。ここからは、スピーカーブーストモードを使用した場合と使用しない場合の、それぞれに最適化した会議室の図をご覧ください。

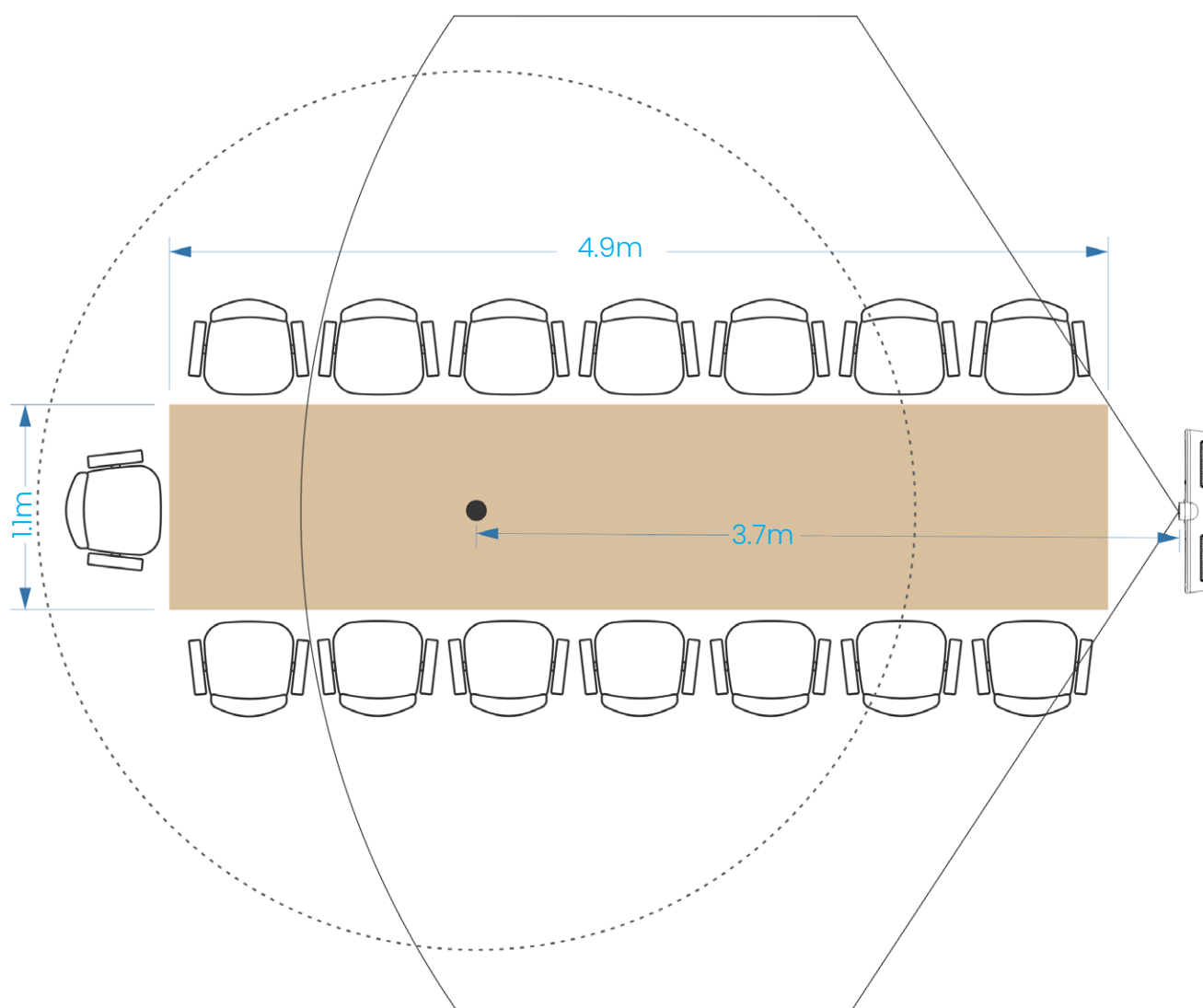


標準のマイクポッド構成

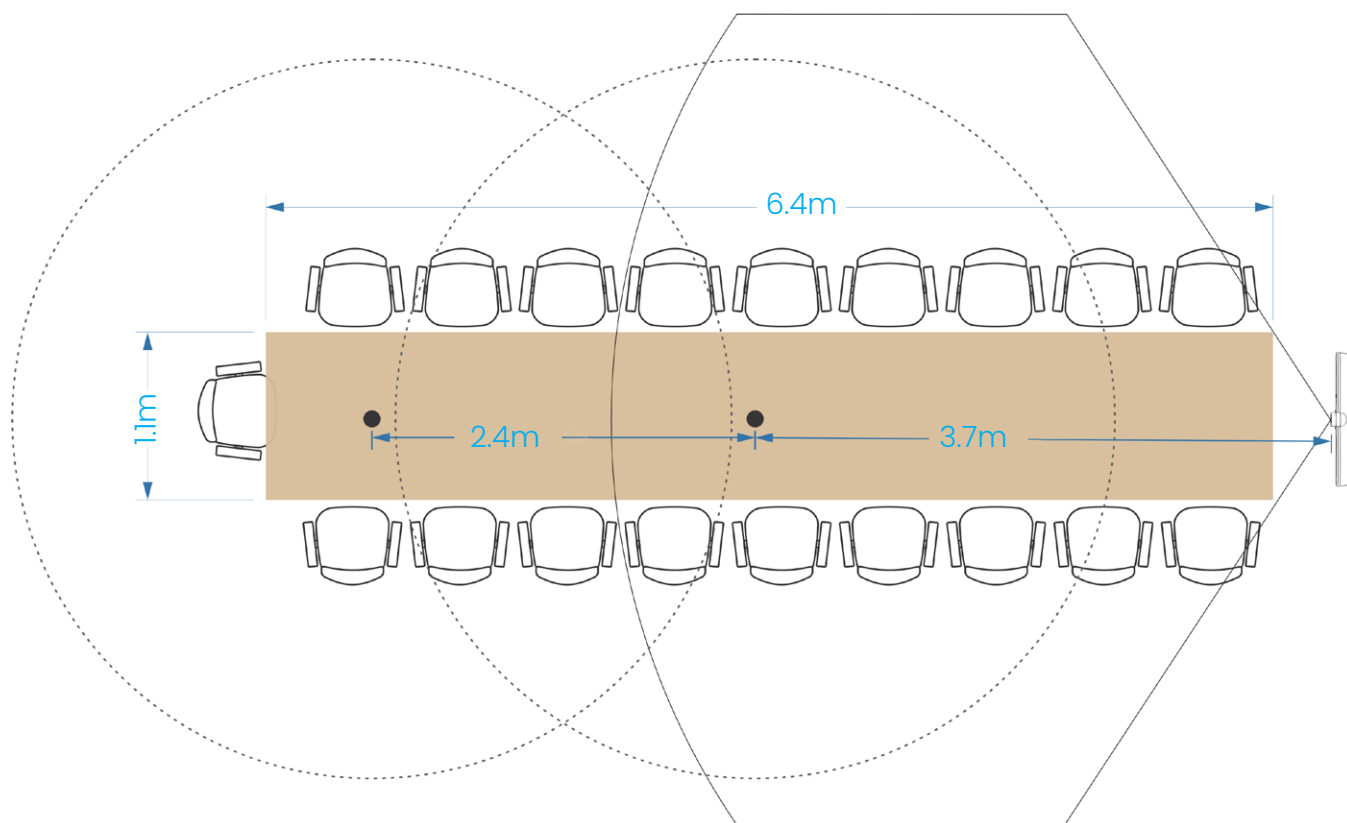
このセクションでは、標準モードで、つまりスピーカーブーストモードを使用せずにRally会議用カメラを使う場合の、マイクポッドの配置例をご紹介します。

標準モードでは、マイクポッドと内蔵マイクの両方を使います。内蔵マイクは、ビデオバーに近い音声を拾います。一方、外付けのマイクポッドは遠くの音声を拾います。

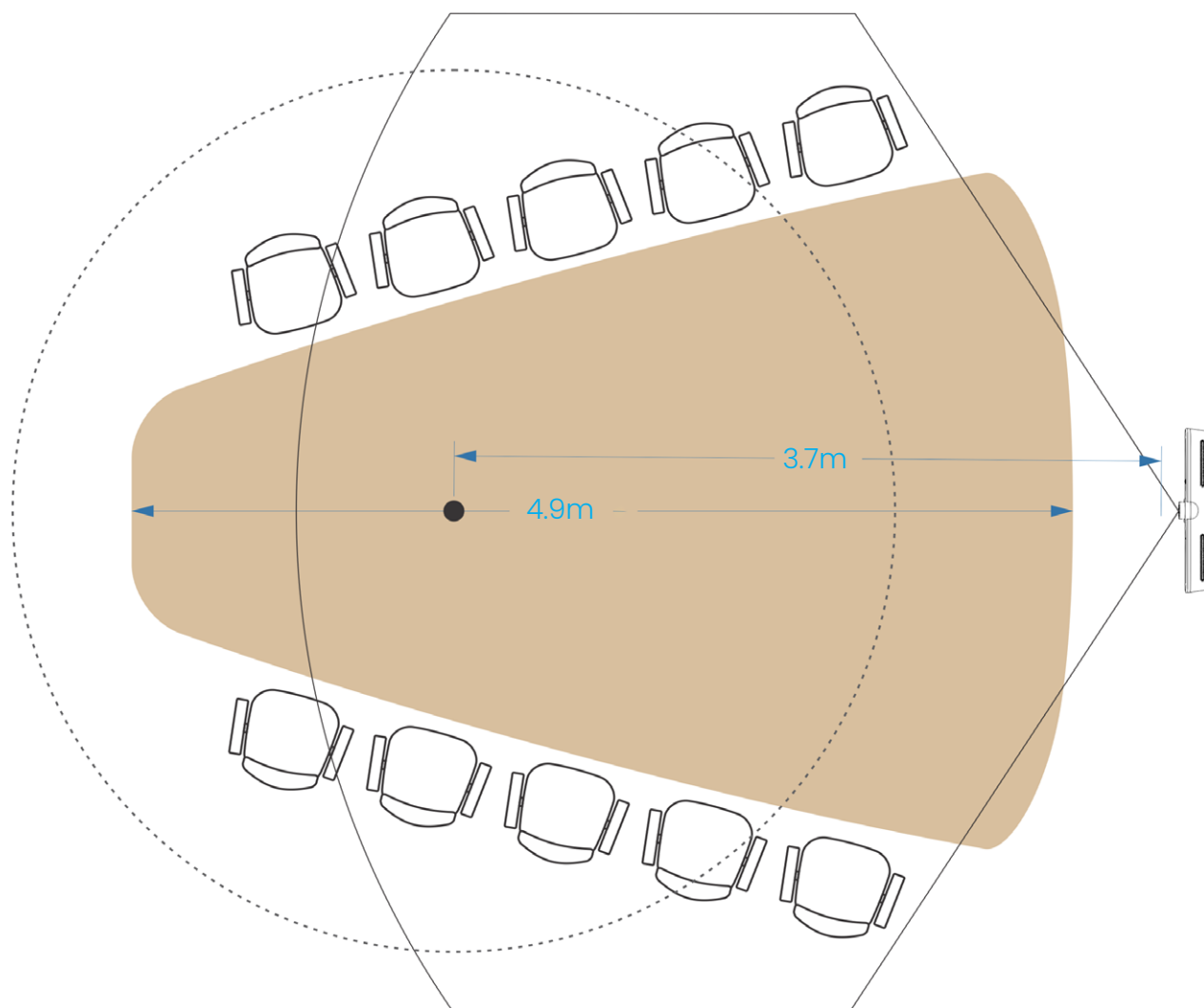
下の図は、マイクの集音範囲を広げる最も基本的な構成です。1台目のマイクは、マイクポッドの集音範囲同士が十分に重なるように、ビデオバーから3.7mの距離に配置します。各マイクポッドの集音範囲の直径は4.6mです。



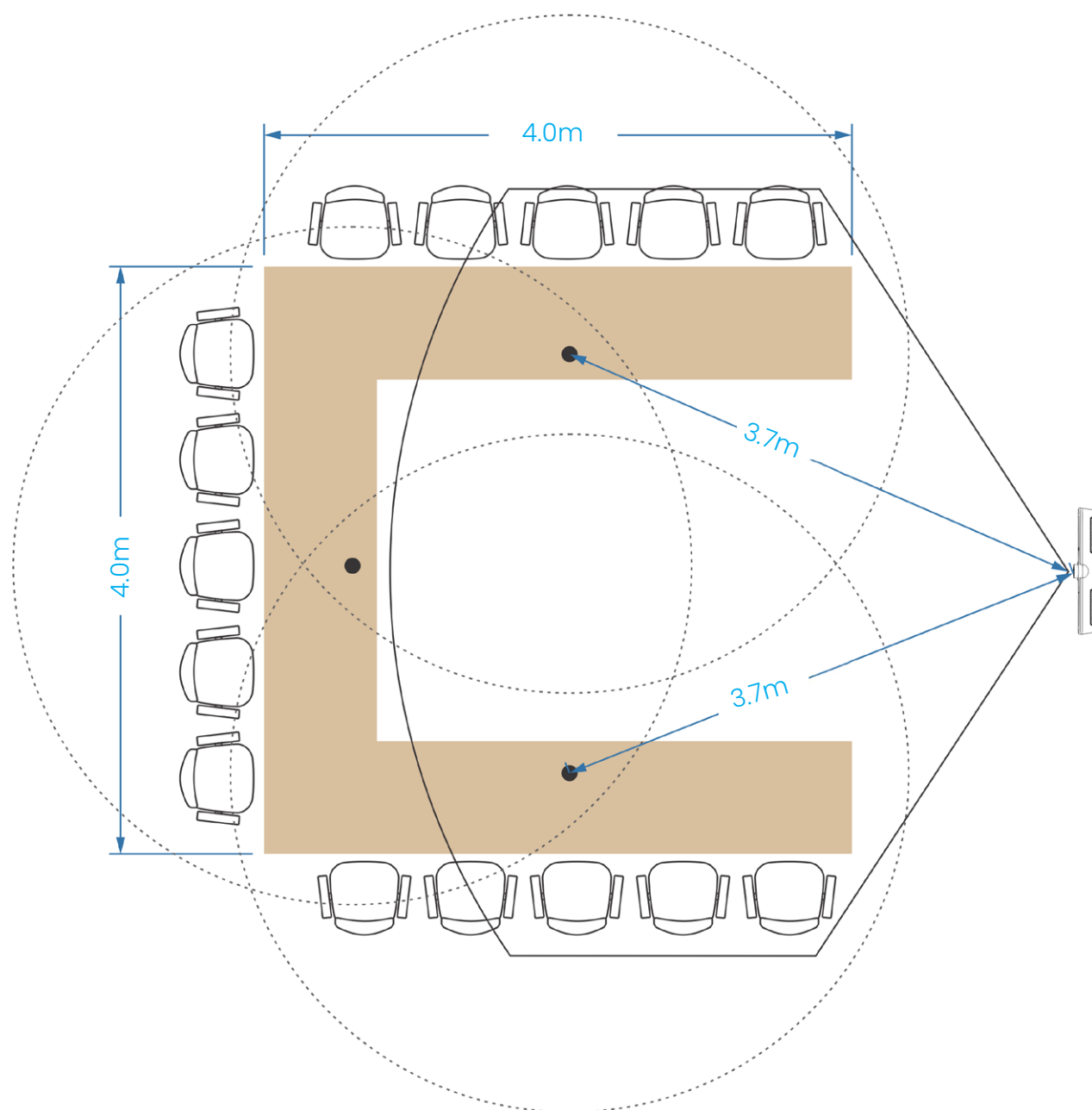
マイクポッドを追加する際は2.4m間隔で配置し、集音範囲同士の重なりが最適になるようにします。また、Rallyマイクポッドマウント使用時のマイクポッドのケーブルの長さからも、この距離が最適であることがわかります。



三角形の会議用テーブルでは、一般的な構成として、2台のマイクポッドの使用が推奨されます。ここでは、マイクポッドはテーブルの両端に設置されています。この設置方法により、テーブルだけでなく、壁際に座っている人やホワイトボードに書き込んでいる人まで、マイクの集音範囲内に収めることができます。



U字型のテーブルや教室型の構成の場合、十分な集音範囲を得るためには、3台のマイクポッド¹を使用するのが理想的です。ここでも、ビデオバーに近い2台のマイクポッドは、カメラから3.7m以内の距離に配置します。U字型テーブルの場合、システムをスピーカー ブーストモードで実行することを推奨します（後述のスピーカー ブーストモードのマイクポッド構成のセクション参照）。

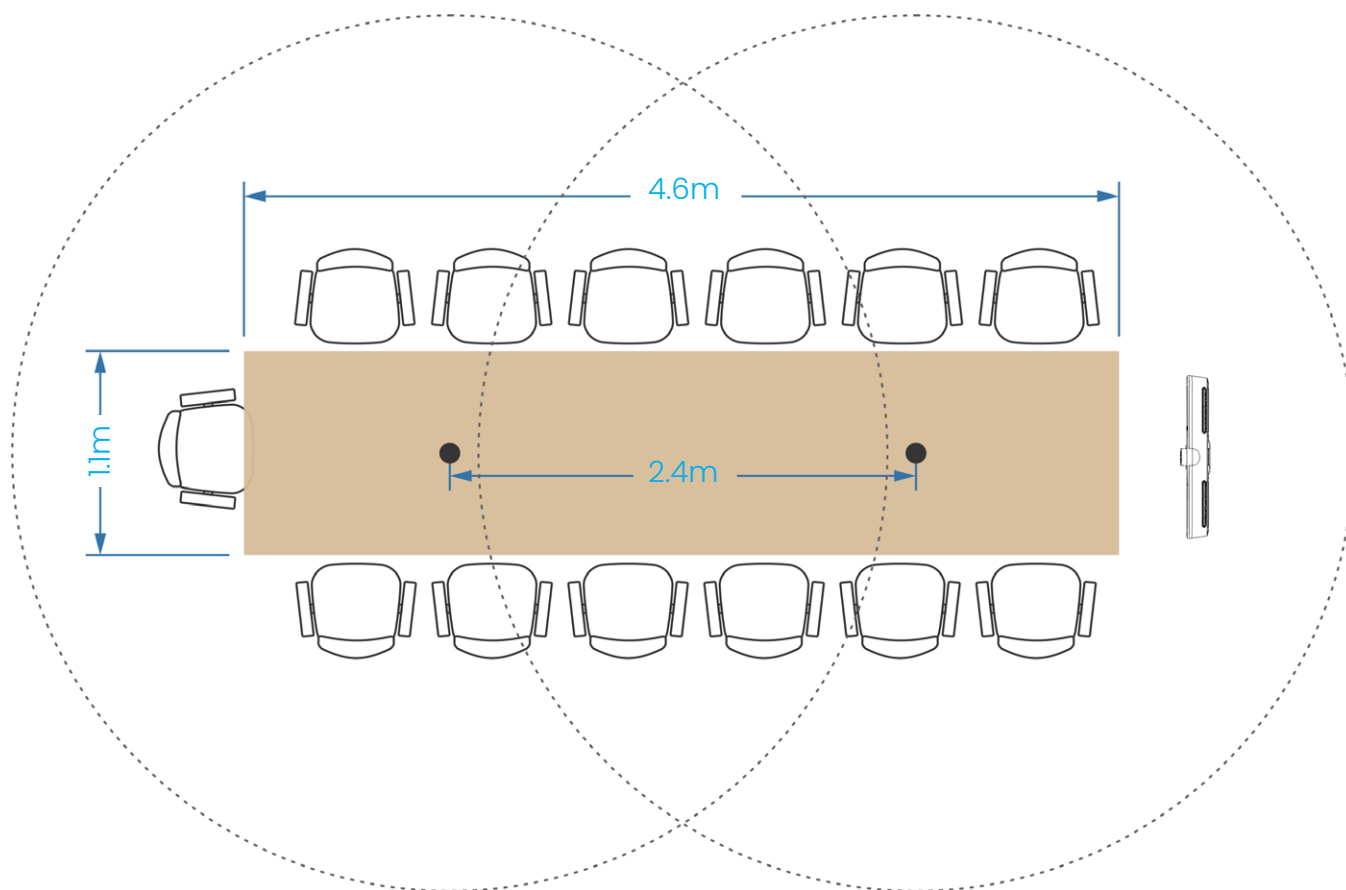


スピーカー ブーストモードでのマイクポッド構成

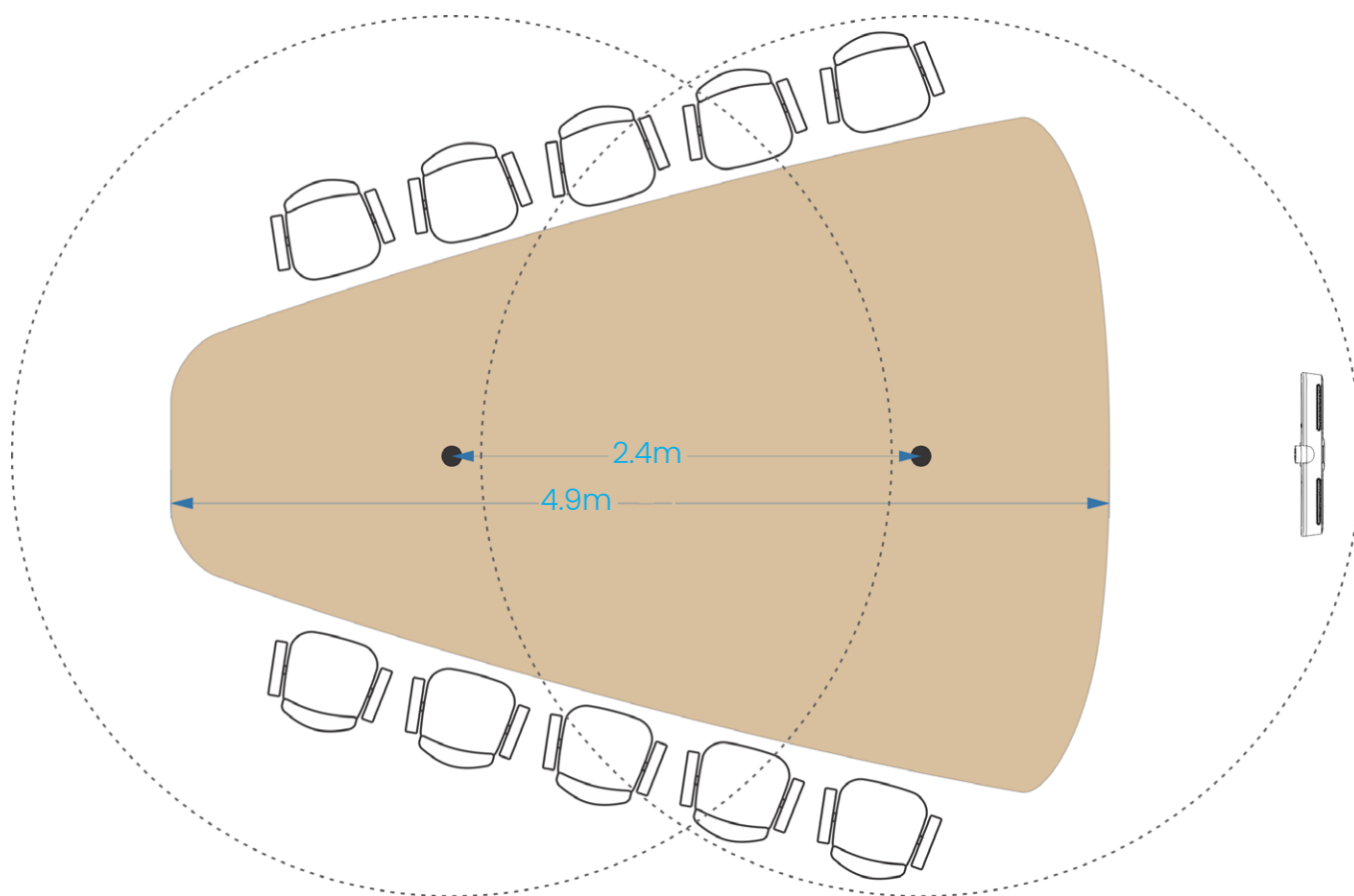
このセクションでは、スピーカーブーストモードを使用してRally会議用カメラを使う場合の、マイクポッドの配置例をご紹介します。

スピーカー ブーストモードを使用する際は、外付けのマイクポッドのみが機能します。標準モードの構成と同様ですが、ビデオバーの近くにマイクポッド1台を追加して、会議室前方付近の音声を拾います。

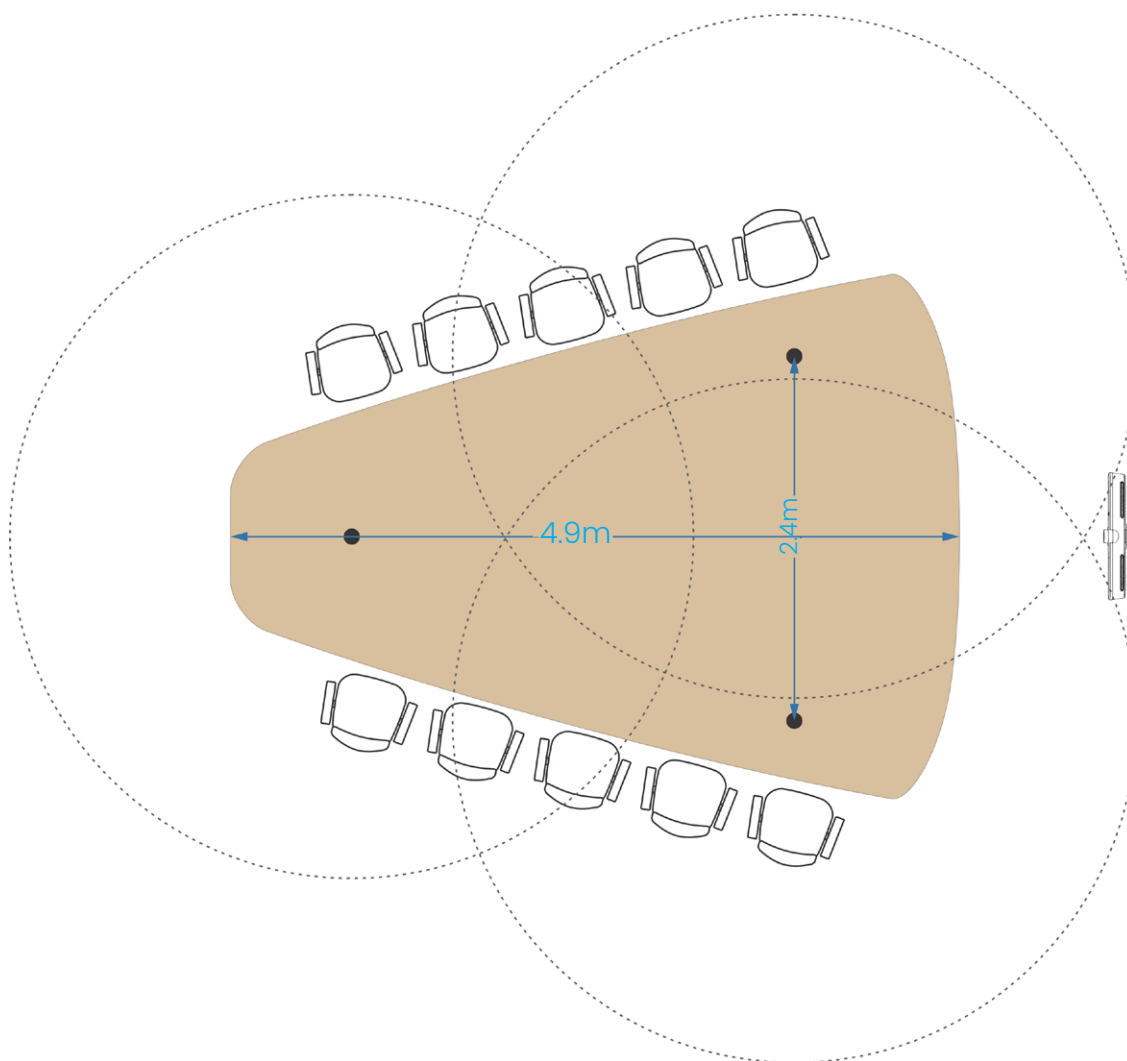
2台のマイクのレイアウトです。



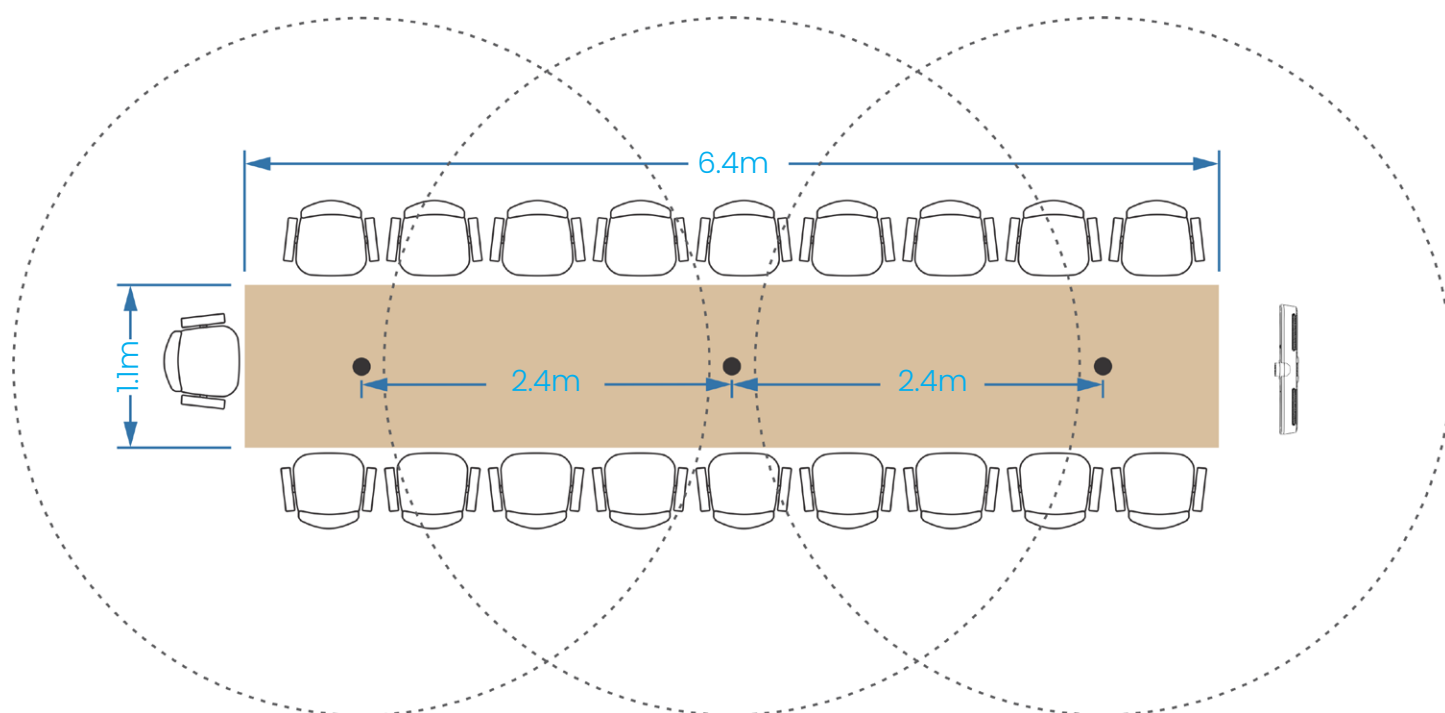
以下は、2台のマイクを使用する別の構成例です。ここでも三角形のテーブルが使用されていますが、この例では、テーブルに座っている人の音声を拾うことに重点を置いています。



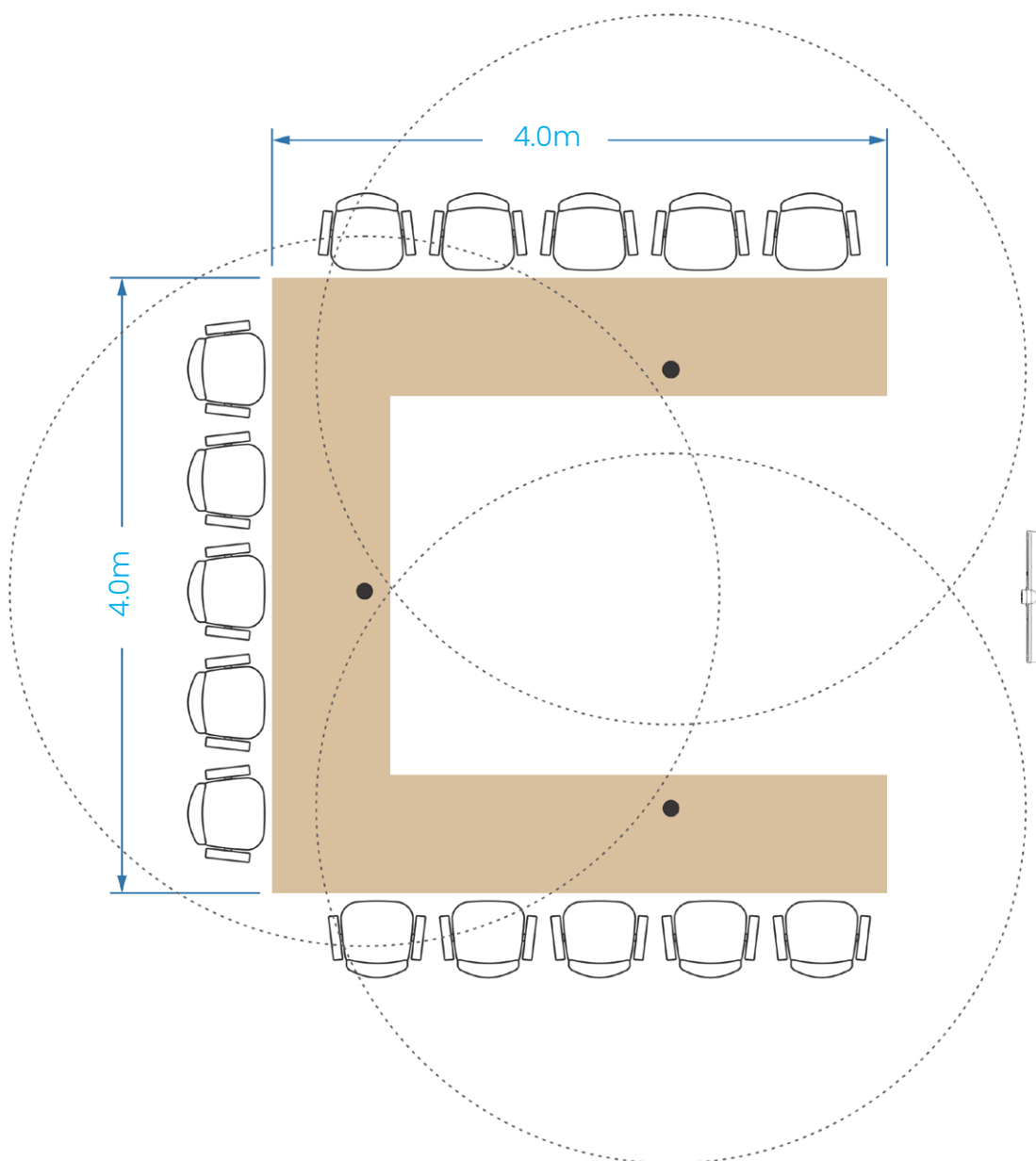
会議室の壁に沿って椅子が並んでいたり、ホワイトボードを日常的に使用したりするケースでは、マイクポッドのレイアウトを変えて、テーブルから離れた場所にいる人まで集音範囲を広げます。その場合、間隔を空けられるよう、1台目と2台目のマイクポッドの間にRallyマイクポッド延長ケーブルを使用します。



もう1つの一般的な構成例として、長テーブルで3台のマイクポッドを使用する例を紹介します。ここでも、マイクポッドの間隔は2.4mです。



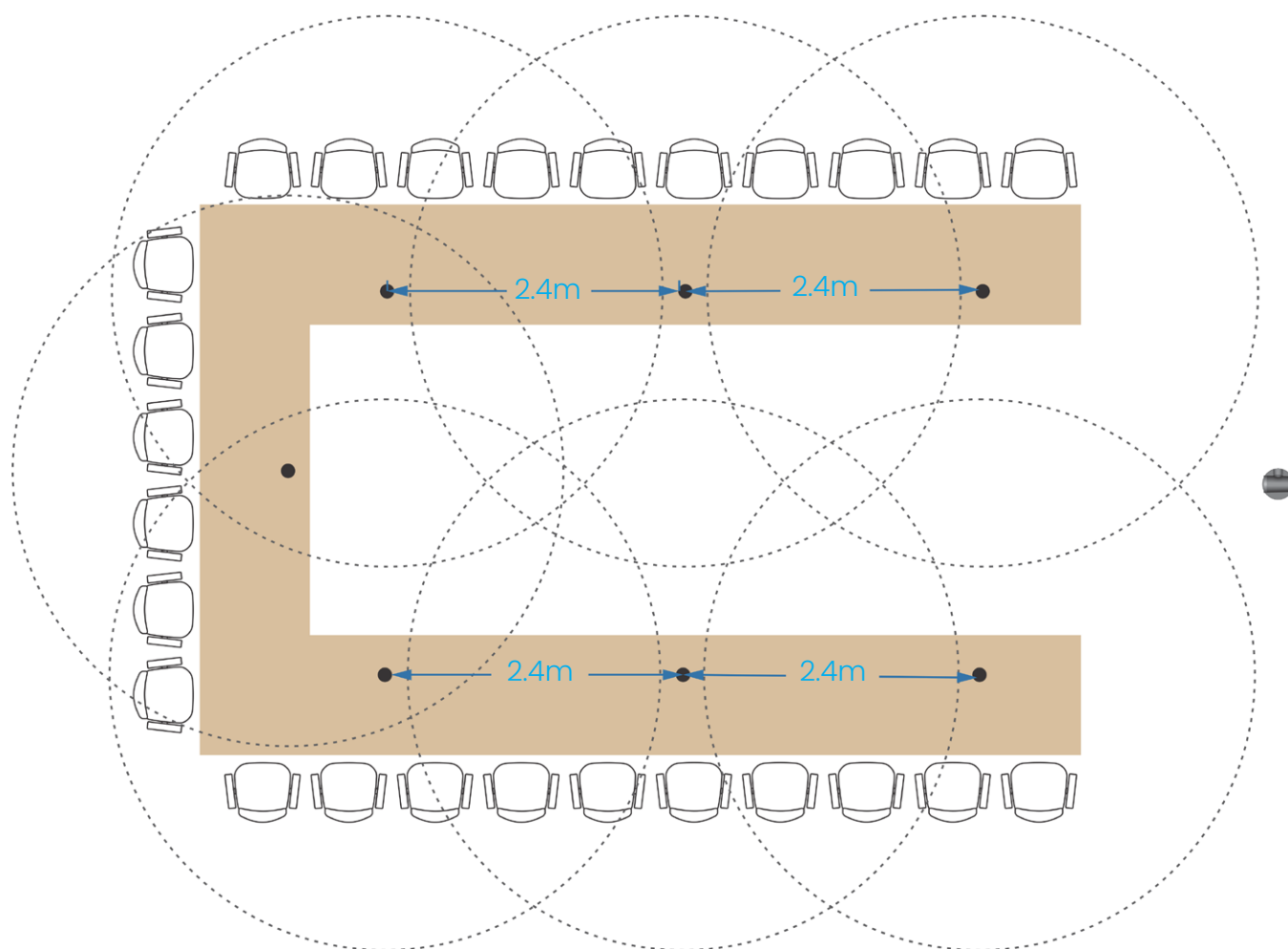
U字型のテーブル構成では、会議室の前方に近い席でカメラの方を向いている人たちの音声を適切に拾えるように、マイクポッドを会議室の前方に優先的に配置します。ここでも、マイクポッドの間隔は2.4m以下にします。



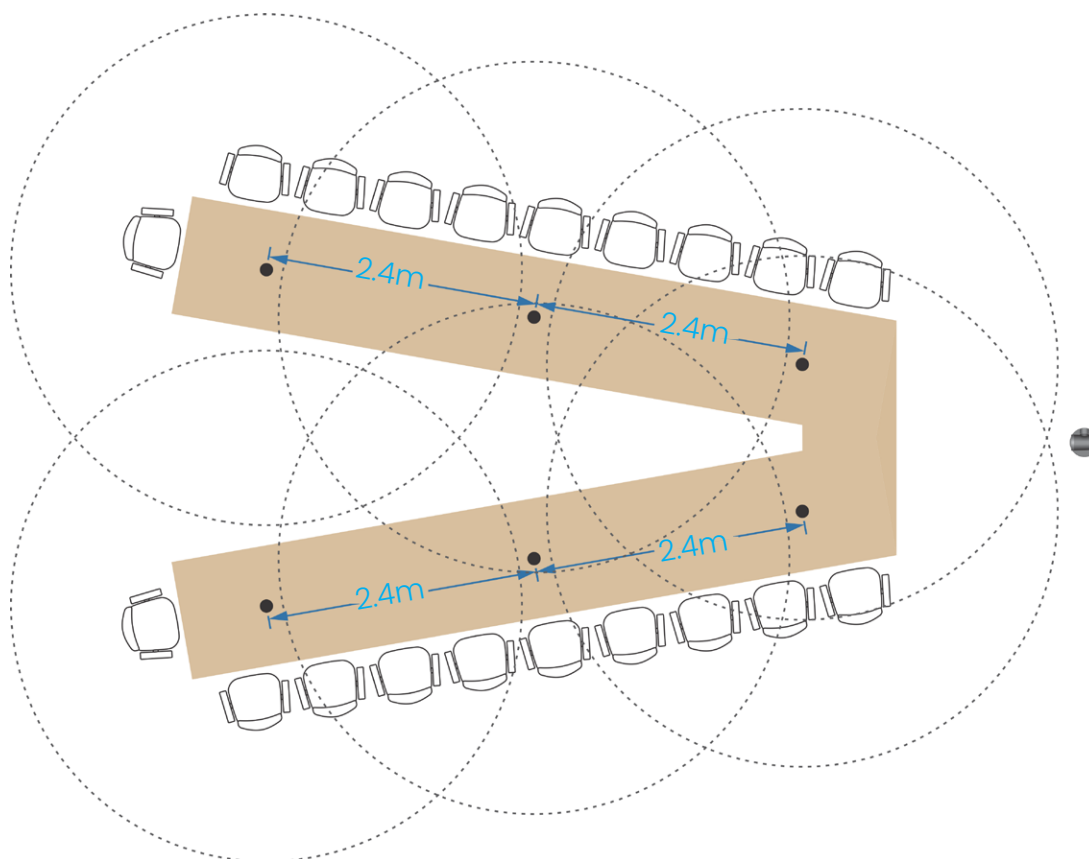
RALLY PLUS

大会議室での柔軟性を高めるために設計されたRally Plusは、最大で7台のマイクポッドと、7台のマイクポッドハブに対応します。Rally Plusは外付けのマイクポッドのみを使用するため、その配置はスピーカーブーストモードを使用したRally BarとRally Bar Miniで述べたものと同様です。ここでも、マイクポッドの間隔は2.4m以下とし、参加者が会議用のテーブルに座っているのか、それとも壁際に座っているのか、考慮する必要があります。

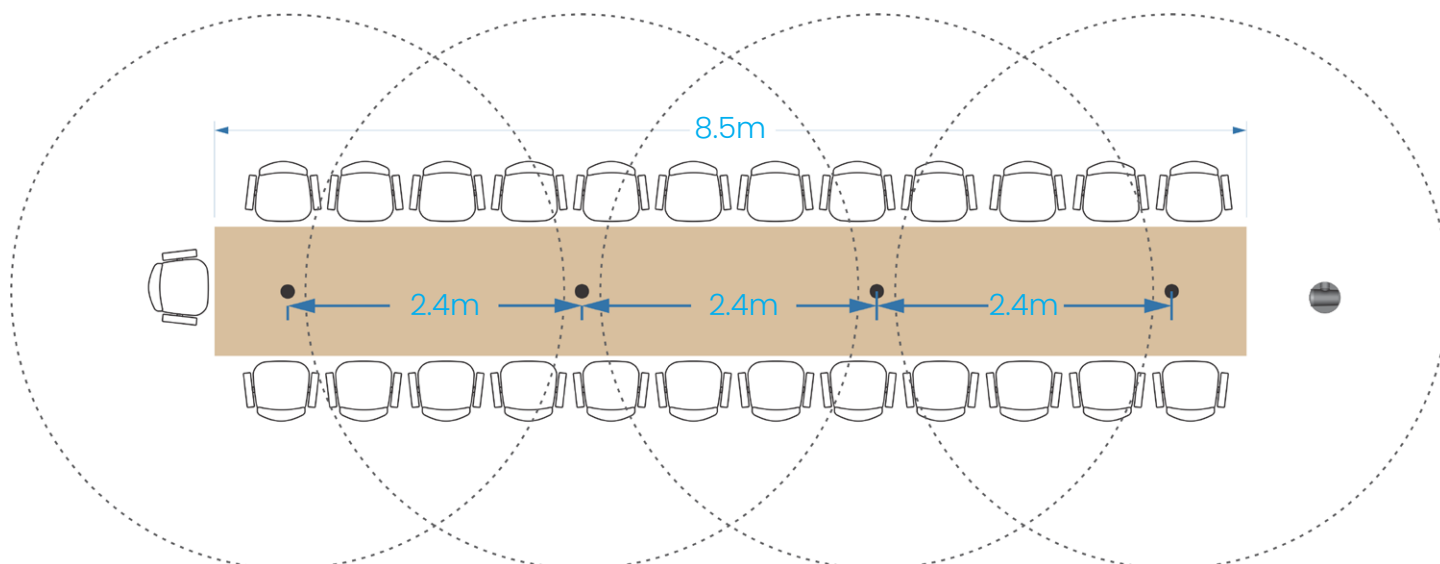
最大で7台のマイクポッドを使用することで、大型のU字型テーブルなど、さまざまな大規模構成に対応できます。



V字型テーブル：

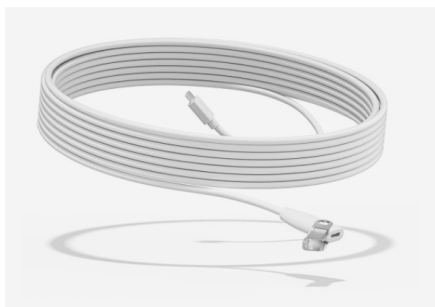


奥行きのある長テーブル：



アクセサリ

外付けのマイクポッドを使用した設置にお勧めのアクセサリを、3つご紹介します。



Rallyマイクポッド延長ケーブルは、マイクポッドをビデオバーから遠く離れた場所に設置できる長さ10mのケーブルで、プレミアム定格およびECA規格に準拠しています。Rally BarとRally Bar Miniでは延長ケーブルを最大2本、RallyとRally Plusでは1本をそれぞれ使用できます。

- Rally BarとRally Bar Miniでは、2本の延長ケーブルは複数のマイクポッド間や延長ケーブル同士をつなげるなど、どこにでも配置することができます。
- RallyとRally Plusでは、延長ケーブルは必ずテーブルハブに接続します。



Rallyマイクポッドハブは3つのコネクタと長さ2.9mのケーブルを備え、マイクの配置の柔軟なカスタマイズを可能にしています。

注：Rally Barは、2台のマイクポッドハブと4台のマイクポッドに対応します。Rally Bar Miniは、2台のマイクポッドハブと3台のマイクポッドに対応します。RallyとRally Plusでは、7台のマイクポッドハブと7台のマイクポッドを使用できます。



Rallyマイクポッドマウントは、ケーブルを隠して、テーブルや天井などお好みの場所にマイクポッドを固定します。（グラフィイトまたはホワイト）

Rally会議用カメラと音響システムの設定に関する詳細は、prosupport.logi.comをご覧ください。

logicool

販売代理店または当社
(www.logicool.co.jp/vcsales)
までお問い合わせください

購入前のお問い合わせ：
株式会社ロジクール
<https://www.logicool.co.jp/ja-jp/video-collaboration/help/contact-sales.html>

購入後のお問い合わせ：
株式会社ロジクール
カスタマーリレーションセンター
prosupport.logi.com

¹ Rally Barは最大4台、Rally Bar Miniは最大3台のRallyマイクポッドに対応しています。

© 2022 Logitech, Logicool. All rights reserved. 株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。記載されている会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に含まれる製品、価格設定および機能情報は、予告なく変更される場合があります。

発行：2022年3月